

審判員の基礎知識

千葉市の大会はセルフジャッジ方式を採用しています。規律ある試合を進行させるには、審判の的確な吹笛（ジャッジ）が不可欠です。JSVAの資格を保有されている人が吹笛するのがベストですが、そこまでは望めません。そこで、千葉県ソフトバレーボール連盟では審判員養成規定により参加団体の希望者を募り、資格審査を実施し、合格された人達に認定証を交付、その人たちにも参加願い推進しています。

当資料は、その前段階の人たちに審判の基礎知識を習得していただくために作成したものです。

1. 審判団の構成

主審 副審 線審×2 点示員 の5名で構成します。

<下記の流れをプロトコールと称します>

2. 審判を担当するコートの中の試合が終了した後、

主審は次の試合のチーム・キャプテンを吹笛とシグナルで、副審サイドのポール際に招集します。隣のコート間が狭いので、ポール際のコート内でやるようにしてください。

3. 主審は副審の立会いのもと、両チームのチーム・キャプテンにジャンケンさせます。

4. 主審はジャンケンに勝ったチーム・キャプテンに「サーブ権かコート」を選択させます。

5. 主審は両チームに合同練習（3分）<大会の競技要項で時間は変わります>開始の吹笛をします。

5-1. 副審は計時を担当し、終了時間が来たら、主審にその旨を連絡します。

5-2. 主審及び副審は副審サイドのポール際に待機します。

5-3. 副審は両チームに目玉の提出を依頼します。

6. 主審は合同練習終了の吹笛をし、両チームの競技者をベンチに下げます。

7. 主審は両チームの競技者（全員）をエンド・ラインに誘導する吹笛をします。

7-1. 主審はネットに対し右側に、副審は左側に位置します。

7-2. 両チームの競技者が整列したのを確認後、主審サイドに副審とともに移動します。

7-3. 主審サイドのポール際に回れ右をし、挨拶の吹笛をします。

8. 主審は審判台に上がります 副審は副審サイドに移動します。

9. 主審は線審、点示員の配置を確認後、両チームのスタメンをコートに誘導する吹笛をします。

10. 副審は両チームの競技者の配列を目玉と照合します。

10-1. サーブ順の管理業務を線審に委ねるときは、配列を確認後に線審に渡します。

10-2. 両線審は目玉を引き取りのため、副審の脇で待機します。

10-3. 副審は照合が終了した後、OKのシグナルを主審に合図します。

万一、目玉と配置・配列が異なっている場合は監督もしくはチーム・キャプテンにその旨を連絡します。訂正等の要求は無罰で対処します。

11. 副審はサービス・チームにボールを渡します。

12. 主審は試合開始の吹笛をします。

*** 試合の進行は <ソフトバレーボールの基礎（競技規則）>を参照ください ***
(プロトコール)